

絵本の里のきつけ

絵本の里づくりのきっかけは、昭和63年2月に剣淵商工会青年部が、士別市在住の版画家を講師に主催したまちづくり講演会で、「知り合いの児童図書編集長が北海道に住みたいので家を探している。」とのことから、青年部がぜひ剣淵を見てもらいたい。」と申し出て、紹介された福武書店児童図書編集長との出会いからはじまります。

同年3月28日、東京からまだ雪の见られる剣淵町に来町され、町内のあちこちを案内された福武書店の児童図書編集長は、広々とした田園風景や、山と森に囲まれた桜岡湖を見て『この町はヨーロッパの風景と似ていますね。ヨーロッパでは、絵本の原画は芸術品として高く評価され、あちこちの町に絵本原画の美術館があります。しかし、日本では個人の美術館がわずかに所蔵展示しているだけで

す。絵画と違って、絵本の原画はページ数分が全てそろってひとつの作品です。色々な作家の作品を集めて、だれも見たい時に見ることができる原画美術館が日本にもほしいと思っているのです。』と話されました。

この時の話から、絵本原画美術館構想が生まれ、絵本の里づくりの原点となりました。

けんぶち絵本の里を創ろう会結成

町の活性化を模索していた町民有志が、行動を起こしました。まず、絵本の里づくりを展開するためには、絵本」について多くの方に話を聞いてもらうことが先決と考え、町公民館の理解を得て、昭和63年5月2日に「すばらしい絵本の世界」と題した講演会（公民館主催）を開催、第2部は「絵本を使ったまちおこし」をテーマにした懇談会で、参加者は80名くら

いでしたが、反響は大きいものがありました。

同年6月8日、町民有志14名の発起人により「けんぶち絵本の里を創ろう会」の設立総会が開催され、会長に高橋毅さん、事務局長に肥田久宣さんが選任され、住民活動による新しい地域づくりが始まりました。

絵本の里を創ろう会では、最初の企画として、同年9月、小池暢子さんとポーランドのクリスティーナ・ヒエロフスカさんによる国際交流版画二人展」を開催、11月には、町の文化祭に合わせて「手嶋圭三郎絵本原画展」、平成元年2月に「北海道絵本の里冬の絵本原画展・シンポジウム」を立て続けに開催。町民を絵本の世界に引き込み、会の自信へとつながりました。また、原画展のほかにも絵本の全戸回覧や読み聞かせ会、町内巡回文庫（25カ所）も始め、押し花絵、布絵などサークル活動へも広がっていきました。

町では、平成元年度に「ふるさと創生資金（1億円）」の半分を絵本の里づくりに使うことを決め、公民館の改修や絵本1,000冊と絵本原画を購入し、この年から会の活動に対して町助成金を交付、翌平成2年度には、絵本原画収蔵館を建設し、平成3年8月1日には、公民館を愛称「絵本の館」としてオープンしました。

創ろう会では、かねてから原画展のほかにメインとなる事業を練っていました。それが平成3年度から始められた「けんぶち絵本の里大賞」です。これは、前年度1年間に日本で出版された絵本を作家や出版社に応募してもらい、その絵本を絵本の館に展示し、来館者が自分の好きな絵本に投票して大賞を決定するというもので、大賞受賞者（受賞作品）には賞金50万円（当時100万円）と50万円相当の剣淵の農産物が3年間に分けて贈呈されます。絵本の応募は毎年3より冊前後、投票期間は

けんぶち絵本の里を創ろう会



結成30周年を迎えました

毎年8月と9月の2カ月間、絵本原画展と併せて絵本の館で開催されます。

絵本の里大賞の授賞式は毎年2月～3月にかけて実施される「絵本まつり」の期間中に、歓迎レセプションと併せて開催され、作家の方や出版社の方々との交流も行われています。

絵本の里づくりの背景には、障がい者支援施設「剣淵西原学園」の地域づくりへの参加協力や創ろう会と同じくして結成された「剣淵・マツダとふれあう会」昭和63年1月17日結成、更には、絵本の里には人と自然にやさしい農業がよく似合うと、安全な農産物の産直に取り組む「剣淵・生命を育てる大地の会」平成2年2月1日発足など住民活動団体の積極的な協力もありました。

絵本の里を創ろう会では1年間を通して30周年の事業を予定しています。

6月9日、絵本の館において過去に絵本の里大賞を受賞した作家の長谷川義史さん、真珠まりこさん、宮西達也さんをお招きして記念セレモニーおよび講演会を開催しました。

長谷川さんは「大賞の副賞で送られてくる健康野菜で自分も子どもたちも成長した」。真珠さんは『もったいない』は本当に素晴らしい言葉。絵本を通じて広げることができた。宮西さんは「絵本の里大賞はすごく印象深い賞。多くの支持をいただいたことに感謝したい」との話がありました。

また、剣淵町開拓の歴史をつづったふるさと紙芝居「やちだもの木」を制作し、脚本を書いた玉根

真弓さんが読み聞かせを行いました。紙芝居12枚1セットで、町の保育所、学童保育所および小学校などへ寄贈のほか、一部は販売する予定です。

その他にも、木のおもちゃ展、ムーニャの着ぐるみ作製、記念誌の発行やトートバック、手ぬぐい、バンダナなど多品目の記念品の作製などを予定しています。



真珠まりこさんの講演

けんぶちを有名にしたい！たった一人の思いがキッカケに30年が経ちました。当時は夢を語り、酒を飲みながら朝まで・・・私たちの想像をはるかに超えていた絵本の正体。何も知らなくて、分からなくて、今思うと絵本の秘めた力は無限大であることを感じています。

結成30周年を迎え、これからもたくさんの方々のお力添えで未来を担う子どもたちへの宝物を創っていきます。

30年は通過点です。これからも何十年と続く息の長い、絵本の里を創ろう会であるよう努力してまいります。



けんぶち絵本の里を創ろう会
会長 下田秀樹さん